

“日本の香り”をリシンクする館鼻則孝の最新個展開催
「NORITAKA TATEHANA RETHINK—館鼻則孝と香りの日本文化—」
歴史ある空間 旧山口萬吉邸で“香りの文化”を堪能
2018年9月14日（金）～16日（日）旧山口萬吉邸（kudan house）

アーティストの館鼻則孝は、日本文化を再考する展覧会「NORITAKA TATEHANA RETHINK—館鼻則孝と香りの日本文化—」を、2018年9月14日（金）から9月16日（日）の3日間限定で、歴史的建築として名高い東京・九段の旧山口萬吉邸（kudan house）にて開催いたします。

昨年表参道ヒルズで開催した大規模個展「館鼻則孝 リ・シンク展」に続き「日本文化をリシンクする」をテーマとし、中でも「香りの日本文化」にフォーカスした展覧会です。代表作のヒールレスシューズから、「源氏香の図」をモチーフとした香炉など、新作も多数展示します。また会場内の和室では京都の香老舗 松栄堂の協力を得て「間香体験」を実施します。先着200名には、ギフトとして松栄堂とコラボレーションした匂い袋を数量限定でご用意しております。



■ **香りをじっくり堪能する間香体験**

京都の香老舗 松栄堂の協力を得て「間香体験」をお楽しみいただけます。「香りを聞く」と表現する間香では、香木を鑑賞する楽しみを、みなさまと共有します。3種類の香りの違いを体験し、日本の「香」の魅力を再発見していただく機会になります。

■ **最新作に関する作品解説**

・ **源氏香図 蒔絵香炉, 2018**

香りの日本文化を「RETHINK」して制作をした香炉は、大きな球体に「源氏香図」と呼ばれる図形的な紋様が蒔絵によって描かれています。この紋様は、源氏物語の全54帖のうちの52帖の巻名が附されています。また、5本のストライプの組み合わせによって成立する図形は、1960年代アメリカのミニマル・アートを彷彿とさせます。

・ **Theory of the Elements, 2018**

鮑貝を用いた螺鈿細工と漆調の溜塗によって仕上げられた本作は、日本の伝統工芸士と呼ばれる職人の手仕事によって完成されています。使うほどに年齢を重ねる日本の素材は作り手から使い手へと受け継がれます。

日本伝統文化を学んだ大学時代に、私が研究していたのが江戸のアヴァンギャルドとも言べき花魁のファッションについてでした。遊女の履く高下駄を現代的な解釈で卒業制作として発表したのが、私の代表作でもあるヒールレスシューズです。それは古来より受け継がれる日本の文化を現代へ翻訳したように、意味を持った作品となりました。明治期以降、西洋化された現代日本を生きる私たちには見直すべき文化があると思っています。そのような「RETHINK」によって出来上がったのが、遊女の煙管から着想を得た本作「Theory of the Elements」です。

「Theory of the Elements」は、私の創作活動のプロセスである「RETHINK」とJTの加熱式たばこPloomTECHが体现する「RETHINK」とが共鳴して生み出されました。私は喫煙者ではないですが、PloomTECHにはおいがしないということや煙が出ないというたばこへのリシンクが具現化されていると感じました。本作を実際に使っていただくことで日本文化へのリシンク、そして、たばこへのリシンクを感じてもらいたいと思います。

※アクセサリケースは、本会場にて展示・限定販売しています。



■ NORITAKA TATEHANA RETHINK—館鼻則孝と香りの日本文化—

1階 館鼻則孝の代表作『ヒールレスシューズ』は、遊女の履く高下駄から着想を得た現代日本のファッションとして世界で知られています。ファッションデザイナーを志していた高校時代に初めて靴を制作して以来、15年以上に渡って作品制作のための素材として革に注目し、様々なアプローチを現在も続けています。遊女の簪をモチーフとした彫刻作品やアーチ型の絵画作品においても革を支持体や加飾として使用した実験的な作品です。

B1階 香りの日本文化を「RETHINK」して館鼻が制作をした作品群には「源氏香の図」と呼ばれる図形的な紋様がモチーフとなっています。この紋様は、源氏物語の54帖のうちの52帖の巻名が附されています。また、5本のストライプの組み合わせによって成立する図形は、1960年代アメリカのミニマル・アートを彷彿とさせます。館鼻は日本の伝統文化を新たにフォーマット化することで、過去から現代へと続くわだちを作品の中に見出しています。

2階 源氏香の図が蒔絵によって描かれた球体の香炉は、本展のために新たに制作されました。香りの日本文化に焦点を当てた作品群の中心となる本作は、日本有数の漆器産地として知られる石川県輪島市の伝統工芸士の手によって仕上げられています。加えて、香老舗 松栄堂の松寿文庫より特別に出展されている貴重な資料を通じて、現代に至る香りの日本文化の軌跡を辿ることができるでしょう。

* 和室では、香老舗 松栄堂による聞香を体験することができます。詳細は会場内の案内をご覧ください。

3階 展示物は、館鼻則孝の創作プロセス「RETHINK」という概念を最も体現した作品群で構成されています。遊女の煙管を現代的に表現した作品『Theory of the Elements』を中心として、同様に遊女の高下駄から着想を得た『Heel-less Shoes Series』や『Floating World Series』を展示しています。昨年より続く本展のシリーズ名ともなっている「NORITAKA TATEHANA RETHINK」その軌跡を追うドキュメンタリーフィルムでは、館鼻と共に作品を創造する日本各地の職人達の姿が描かれています。

■ 館鼻則孝の本展への想い

昨年に続き開催となる本展では「館鼻則孝と香りの日本文化」と題し、香りの日本文化を見直します。本展で公開をする30点以上の作品の中には、レディー・ガガの履いたことでも知られる『ヒールレスシューズ』のような私の代表作と合わせて、香りの日本文化から着想を得た『源氏香図蒔絵香炉』などを新作として発表します。また、私自身の所蔵品でもある江戸・明治期の花魁の浮世絵や京都の香老舗 松栄堂が所蔵する貴重な資料を通じて「RETHINK」という創作活動のプロセスを展覧会に訪れた方々にも体験してもらいたいと思います



「NORITAKA TATEHANA RETHINK—館鼻則孝と香りの日本文化—」開催概要

【開催日時】2018年9月14日（金）～16日（日）11時～19時（最終入場は閉館30分前）

【会場】旧山口萬吉邸（kudan house）東京都千代田区九段北1-15-9

【入場料】無料

【主催】株式会社ノリタカタテナ【協賛】日本たばこ産業株式会社

【特別協力】香老舗 松栄堂

【スペシャルサイト】 <http://rethink.noritakatatehana.com>



旧山口萬吉邸（kudan house）

1927年に日本を代表する3人の建築家（内藤多仲氏・木子七郎氏・今井兼次氏）によって造られた歴史的建築物、山口萬吉邸のレガシーを生かしながら大胆にリノベーションした会員制ビジネスサロン。日本に息づいてきた『借景』『縁側』の空間づくりを通じ、ソトとウチがつながる、新しいフンカを提案するディベロップメントディレクション、デザインプロデュースの集団であるNI-WAが、次世代ビジネスの創出と文化発信のプラットフォームを運営します。美しい曲線を施したスパニッシュデザインと鉄筋コンクリートの黎明期の代表作としての質感はそのままに、約800m²に及ぶ地上3階、地下1階のモダンな邸宅と緑豊かな庭園を、『4つの茶室』を代表に番眼眼を研ぎ澄ますクリエイティブな空間となっています。

<https://kudan.house/>



館鼻則孝プロフィール

1985年、東京生まれ。歌舞伎町で銭湯「歌舞伎湯」を営む家系に生まれ鎌倉で育つ。シュタイナー教育に基づく人形作家である母の影響で幼少期から手でものをすることを覚える。東京藝術大学では絵画や彫刻を学び、後年は染織を専攻する。遊女に関する文化研究とともに日本の伝統的な染色技法である友禅染を用いた着物や下駄の制作をする。近年はアーティストとして、国内外の展覧会へ参加している。2015年12月に和敬塾本館で開催した「館鼻則孝：面目と続行」展では、JT（日本たばこ産業株式会社）の「Rethink」の考えに共鳴し、日本各地の伝統工芸士とともに制作した現代的な煙管作品「Theory of the Elements」を発表した。2016年3月には、仏カルティエ現代美術財団にて人形浄瑠璃文楽の舞台を初監督「TATEHANA BUNRAKU : The Love Suicides on the Bridge」を公演。2017年8月、日本文化の過去と未来を往来し、自身の制作ルーツを見直す展覧会「館鼻則孝リ・シンク展」を表参道ヒルズにて開催。

作品は、ニューヨークのメトロポリタン美術館やロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館など、世界の著名な美術館に永久収蔵されている。